

群 教 セ	H01 - 01
	平 30. 269 集
	幼児教育

イメージを共有しながら 友達と一緒に遊びを楽しむ幼児の育成

—音楽を活用した環境の構成と言葉掛けの工夫を通して—

特別研修員 高野 佳子

I 研究テーマ設定の理由

幼稚園教育要領解説（平成 29 年 3 月）の 5 領域の「人間関係」の内容（8）には、「友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする」と示されている。幼稚園生活において、幼児は、一緒に生活したり遊んだりする中で、次第に人間関係が広がり、年長児になると、一人一人の幼児が遊びのイメージをもちながら友達と関わる中で、自己主張をしたり、折り合いをつけたりしながら、同じ目的に向かって遊びを進めるようになってくる。

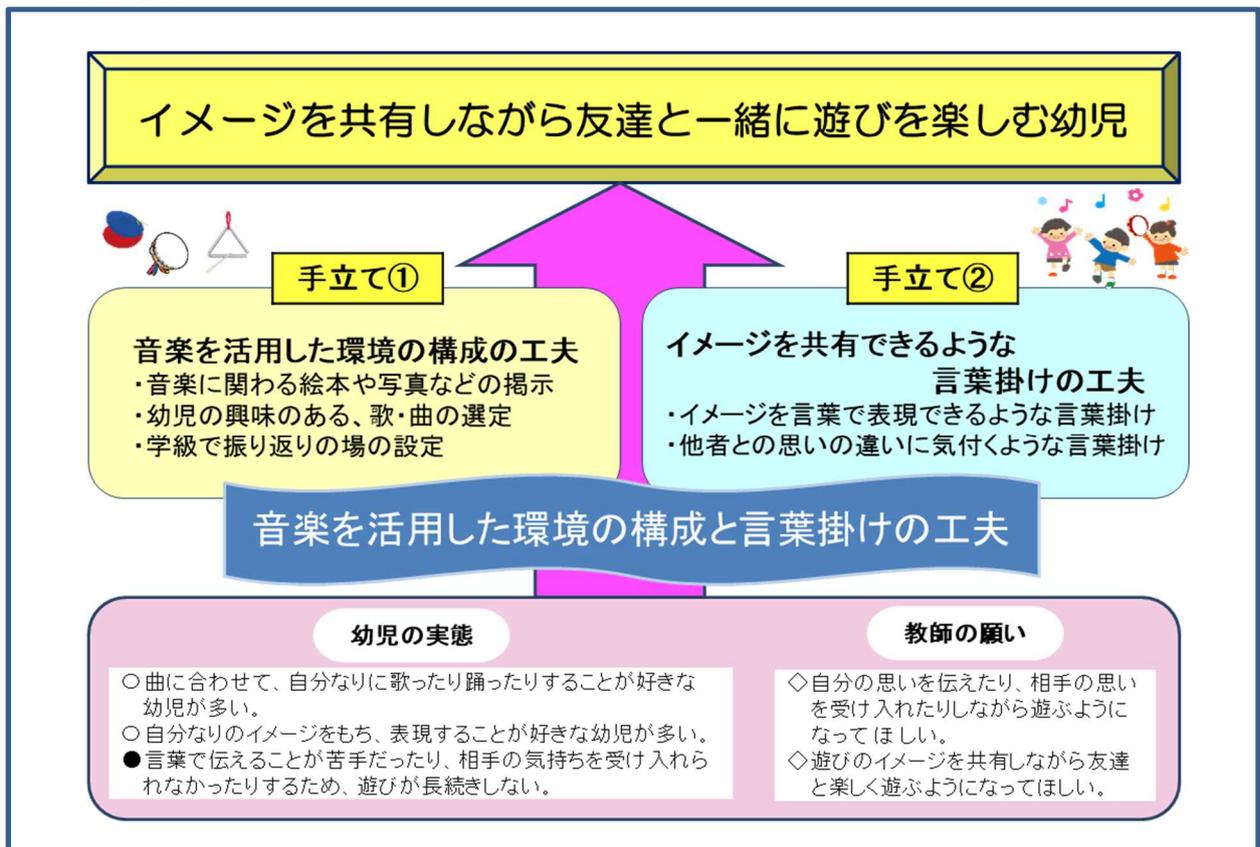
研究協力園（以下、協力園）で実践を行った学級の幼児の実態は、音楽に合わせて表現することが好きな幼児が多く、音楽が掛かると自然と集まってきて歌ったり踊ったりするなどの姿も多く見られる。また、一人一人が自分なりのイメージをもち、表現を楽しむ姿が見られる。

しかし、言葉で伝えることが苦手だったり相手の気持ちを受け入れられなかったり、自分の思いを通そうとしたりするなどの姿が見られるため、イメージを共有することが難しく、一緒に遊びを楽しみたいという思いをもちながらもトラブルになることも多い。

以上の実態から、幼児が好きな音楽を活用した環境を構成したり、遊びのイメージを共有できるような言葉掛けを工夫したりすることで、イメージを共有しながら友達と一緒に遊びを楽しむことができるようになると考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 保育改善に向けた手立て

幼児が好きな音楽を活用した環境の構成を行い、遊びのイメージを共有できるように教師が言葉掛けを工夫することで、思いや考えを伝えたり受け入れたりすることを通して、イメージを共有することができるようになり、友達と一緒に遊びを楽しむことができるようになることを考えた。

手立て① 音楽を活用した環境の構成の工夫

- ・音楽に関わる絵本や写真などの掲示
- ・幼児の興味のある歌・曲の選定
- ・学級での振り返りの場の設定

手立て② イメージを共有できるような言葉掛けの工夫

- ・イメージを言葉で表現できるような言葉掛け
- ・他者との思いの違いに気付くような言葉掛け

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 音楽に関わる絵本の読み聞かせをした後に保育室内に掲示をしたことで、絵本に出てきた主人公のお面を作って物語を再現しようとしたり、絵本を見ながら必要な物を友達と一緒に作って歌ったり踊ったりして楽しむ姿が見られた。
- 1学期より思い思いの遊びや学級の活動の中で、幼児の興味に基づき、いろいろな歌を歌ったり曲を掛けて踊ったりして楽しんできたことで、自分たちで曲を掛けて歌や踊りを楽しむ姿が見られるようになった。音楽や歌が聞こえると、普段一人遊びの多い幼児も自分から遊びに加わってきたり、自分たちで歌や動きを考えて遊びを楽しんだりする姿が見られた。
- 中学生の演奏会や小学生のマーチングの参観などの音楽に関わる共通の体験の写真を掲示したことで、それを見ながら思い出し、手作り楽器を作り、友達と一緒に歩きながら鳴らし遊ぶ姿が見られた。
- 降園時に学級での振り返りの場を設定し、全員の顔が見えるように円になって座り、話しやすいような温かい雰囲気を作り、意見を伝え合えるようにしてきた。それにより、自分の思いを伝えようとしたり、友達の話に興味をもって聞こうとしたりするようになった。そして、「明日はあの曲で〇〇ちゃんと踊りたいな」「運動会で踊った曲も入れたらどうかな」「ぼくも一緒にやりたい」など、遊びのイメージを共有することができ、翌日の音楽会ごっこへの期待や意欲をもつ姿が見られた。
- 手作り楽器の音のイメージを言葉にできるように、「どんな音がするの?」と問い掛けたことにより、「太鼓の音みたい」「ぼくのは雷の音がするよ」など言葉にして伝え合う姿につながった。また、「一緒にたたいてみようよ」という幼児のつぶやきを周囲に知らせたことで、他の幼児も加わって手作り楽器を使った遊びを楽しむ姿が見られた。
- 同じ場で遊んでいても言葉で思いを伝えることができず、遊びが中断してしまった時には、「〇〇くんに伝えてみたら?」「〇〇ちゃんの話も聞かないと分からないね」など、思いを伝えたり相手の思いに気付いたりできるような言葉掛けをしたところ、幼児なりの言葉で相手に伝えたりする姿が見られるようになり、思いを伝え合いながら遊ぶ姿が見られるようになった。

2 課題

- 手作り楽器の音を鳴らしたり友達の出す音と比べたりして楽しんでいる段階で、音楽会に関する絵本を提示してしまったため、幼児はすぐに音楽会がしたいという思いになってしまった。絵本の提示のタイミングを考慮することが、遊びをじっくり経験させ充実させることにつながるの、幼児の心の動きや遊びの様子をしっかりと見取る必要がある。
- 同じ音楽会ごっこでも、それぞれの幼児のイメージは少しずつ違っている。幼児同士のイメージの共有を急がすのではなく、一人一人のイメージを教師がしっかりと見取り、少人数でもイメージを共有していることを認め、その後に援助していくことが大切である。

1 活動名 「音楽会ごっこを楽しもう」（思い思いの遊びの中で）（5歳児・10月）

2 本活動について

幼児は、1学期からわらべ歌の「あぶくたつた」「はないちもんめ」などの遊びを経験してきたことで、友達と一緒に音楽に関わる遊びの楽しさを味わってきている。また、協力園の誕生会での教師の合奏や、地域の中学生の演奏会、小学生のマーチングなどを参観したり、運動会で、段ボールで太鼓を作り、年中児の遊戯に合わせてたたいたりすることを経験している。このような経験から、歌ったり踊ったりすることや、楽器で遊んだりすることに興味をもち、その楽しさを味わうようになってきている。そこで、教師が音楽に関わる環境の構成やイメージを共有できるような言葉掛けの工夫を行うことで、幼児は思いや考えを伝えたり聞いたりし、イメージを共有しながら音楽会ごっこを楽しむようになると考える。

(1) 研究に関わる5歳児の教育計画

期 月	X I		X II		X III			X IV		X V		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
発達の過程	・友達と一緒に遊ぶ中で友達に自分の思いを伝えるようになる。				・友達と一緒にめあてに向かって取り組むようになる。					・友達と協力したり相談したりして、最後まで頑張るようになる。		
テーマと関わる幼児の姿	・遊びに誘ったり誘われたりして、いろいろな友達と関わり親しみをもつようになる。 ・友達と一緒に曲に合わせて動いたり歌ったりすることで、一体感を感じるようになる。				・曲想に合わせていろいろな動きを友達と一緒に考えたり、動いたりして音楽に合わせて動く楽しさを友達と共有する。					・絵本の話に合った歌やセリフを考えたり、効果音を自分たちで作ったりするなど友達と相談しながら劇を作る。その中で、友達と協力して最後まで取り組む楽しさを味わうようになる。		
研究に関わる活動	・伝承遊び（たけのこいっぼん、あぶくたつた、はないちもんめ、通りゃんせ、なべなべ、あんたがたどこさ）を教師や友達と一緒に動いたり歌を歌ったりする。				・様々な素材・形・大きさの廃材や自然物などを使って楽器を作り、友達と一緒に音楽に合わせて音を鳴らす。 ・思いや考えを伝えたり、聞いたりして、イメージを共有しながら音楽会ごっこやショーごっこをする。					・絵本の話に歌を付けたり、動きを付けたりして友達と一緒に一つの劇を作り上げる。		

(2) 事前の活動→本時の活動→事後の活動

	ねらい	伸ばしたい資質・能力	幼児に経験させたい内容
事前の活動	・様々な素材・形・大きさの廃材や自然物などを使って楽器を作り、色々な音色を出したり友達の音色を聞いたりして楽しむようになる。	・音を出したり聞いたりして、音の違いを感じる力	・いろいろな廃材を叩いたり自然物を入れて音を鳴らしたりして音の違いに気付いたり、鳴らし方を工夫したりする。 ・いろいろな廃材や自然物を使って音の出る楽器を作って友達と一緒に音を鳴らしてみる。
本時の活動	・思いや考えを伝えたり聞いたりしながら、友達と一緒に曲に合わせて楽器を鳴らしたり、音楽会ごっこを楽しんだりするようになる。	・音の出し方、リズムの取り方を工夫する力 ・自分のやりたい遊びのイメージをもち、自分の思いや考えを伝える力	・友達と一緒に叩き方や鳴らし方を考え、音楽に合わせて、演奏することを楽しむ。 ・自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを聞いたりしながら遊ぶ。 ・音楽会ごっこの共通のイメージをもち、必要な物や場を作って遊ぶ。
事後の活動	・音楽会ごっこを楽しんでもらうにはどうしたらよいかを相談して、工夫して遊ぶようになる。	・他の幼児の思いや考えを聞き、折り合いをつける力	・互いの思いや考えを出し合いながら遊びを楽しんでもらうために必要な物を作る。 ・役割を決めて遊びを進める。 ・他学年の幼児を招き、音楽会ごっこをいろいろな場所で行う。

3 本時及び具体化した手立てについて

遊びに必要な物や場を作ったり、思いや考えを伝えたり聞いたりして、友達と一緒に音楽会ごっこを楽しんでほしいと考える。

手立て① 音楽を活用した環境の構成の工夫

- ・どんな音が出るか試したり、いろいろな音の出し方を工夫したりするようになるために、様々な素材・形・大きさの廃材や自然物を準備する。
- ・音楽会ごっこをイメージしやすいように、楽器コーナーの近くに、中学生の演奏会や小学生のマーチングの写真や音楽会の絵本などを掲示する。
- ・音楽会ごっこのステージや観客席を作ることができるよう、楽器コーナーの近くに場所を確保し段ボールやテーブルなどを準備しておく。
- ・音楽会ごっこのイメージを共有したり、翌日の遊びに期待をもったりすることができるように、学級での振り返りの場を設定する。

手立て② イメージを共有できるような言葉掛けの工夫

- ・ 共通のイメージで遊びを進められるように、自分のイメージを言葉で表現して相手に伝えられるような言葉掛けをする。
- ・ 思いの違いからトラブルが起きた時は、互いの気持ちを伝え合えるように、思いや考えを伝えることを促す言葉掛けをしたり、言葉が足りないときには教師が補ったりする。

4 保育の実際

(1) 事前の活動（前日の様子）

H児、I児は、登園後、楽器を作り鳴らして遊んでいた。しばらくすると、「音楽会をやりたい」とA児、B児、C児、D児、E児、G児が集まり、年中児を呼んで音楽会を始めた。しかし、いざ始まると出演したのはC児、D児だけで、F児、G児は恥ずかしい様子で後ろに隠れた。A児、B児は音楽を掛ける係となり、音楽会を進めたが、相談していなかったためうまく進められず、お客さんの年中児も徐々にいなくなりすぐに音楽会は終わってしまった。降園前の学級での振り返りの場面では、翌日にどんな音楽会にしたいかをクラスで話し合った。幼児からは「どうしたらお客さんが来るかな」「もっといろんな曲を掛けようよ」「外でやったらいいかもしれない」などの意見が出された。

(2) 本時の活動

〈ねらい〉 思いや考えを伝え合いながら、友達と一緒に曲に合わせて楽器を鳴らしたり、音楽会ごっこをしたりすることを楽しむようになる。

事例1 <環境の構成を工夫したことで、幼児が音楽会ごっこを楽しむ場面>

教師の願い

- ・ 音楽に合わせて自分らしい表現を楽しみながら友達と一緒に遊んでほしい。
- ・ 思いを伝えたり聞いたりしながら遊びを進められるようになってほしい。

環境の構成

- ・ 音楽会のイメージがもてるように音楽会に関する絵本や中学生の演奏会、小学生のマーチングを見た時の写真を提示しておく。
- ・ 前日恥ずかしがって踊りに参加しなかったF児、G児が、自信をもって踊れる曲や、学級で経験したことのある遊び歌などのカセットを準備する。
- ・ 幼児同士で相談をして遊びを進められるように、視覚的な手掛かりとなるホワイトボードと順番が分かりやすい数字のマグネットを準備する。
- ・ 戸外で遊びが展開されることを予想し、ベンチを保育室前に用意しておく。



図1 カセットテープとホワイトボード

幼児の姿

H児、I児は、登園すると、前日作った楽器を鳴らし、「太鼓の音みたい」「僕のは雷の音」と音を比べて楽しんでいました。A児、B児、C児は、前日にはなかったカセットテープを見付け、曲を掛けて楽しそうに踊り始めた。昨日恥ずかしがっていたF児、G児も楽しそうに伸び伸びと踊りを楽しんでいました。ホワイトボードを見付けると、「プログラム書こう」と踊りの順番を相談しながら曲名を書き始めた。プログラムができたことで、後から参加してきた幼児も見通しをもって遊ぶことができた。その後、戸外でやろうということになり、道具類を運び始めた。お客が座る椅子にベンチを使用し、年少児、年中児がお客になった。

教師の見取り

- ◇1学期に遊んだ曲を提示したことで、前日参加しなかった幼児も音楽会ごっこに加わった。
- ◇ホワイトボードに数字を貼っておいたことで、曲の順番を決める話し合いがしやすくなった。

事例2 <教師の言葉掛けにより、イメージを共有しながら遊ぶようになる場面>

○幼児の姿 ◇教師の言葉掛け

- 音楽会ごっこに来るお客さんが増えてきたので、C児、D児、E児が前日作ったポップコーンやジュースをお客さんに配り始めた。
- E児はお店屋さんの役を楽しみながらも、自分で踊りたい曲の順番が来るのを楽しみに待っていたが、E児は突然、「やらない」と言っていて、一人でジャングルジムに登った。
- ◇教師：「E君、どうしたの？」
- E児：「Cちゃんが僕のこと怒ったからもうやらない」
- ◇教師：「そうなんだ、怒られて嫌な気持ちになったんだね」
- E児は黙ってうなずき、その場からいなくなろうとする。
- ◇教師：「先生も一緒にいるから、Cちゃんに話しに行こうよ」

◇教師の見取りと言葉掛けの意図

- ◇E児は前日に食べ物を作ってお客に配るのを楽しみにしていたので、見守った。
- ◇言葉で伝えられず、嫌な気持ちであることを行動で示している。
- ◇食べ物や飲み物を配っている時に何かあったのかもしれないと考えて、E児の気持ちを聞く言葉掛けをした。
- ◇E児は言葉で伝えることが苦手なので、教師が側にいることで伝えようとするのではないかと考え、C児の所へ一緒に行くと

○E児は不安そうな顔をしながらもC児の側に行き、それをみていたE児も近寄ってくる。

E児：「Cちゃん、嫌だったよ」

◇教師：「ほかに言いたいことはある？」

E児：「僕はあっちでお店屋さんをやりたかったのに、Cちゃんが違う方にカートを持って行っちゃったの。お店屋さん一緒にやりたかったのに」

C児：「僕はこっちでお店屋さんがやりたかったんだ」

○話合いにD児も参加する。

D児：「僕は、3人でやろうよって言ったよ。仲良くした方が楽しいもん」

C児：「そうなんだ。何も言わないで一人で行っちゃったから困ったよ」

◇教師：「気持ちを話したらEちゃん分かってくれたと思うよ」

E児：「今度は相談しようね」

C児：「うん」とE児に言った。

D児：「じゃあ、どこでやるか3人で相談して決めよう」

○その後、3人で再び音楽会ごっこに参加し、お店屋さんになって楽しんだ。



葉掛けをする。

◇話し合う場を設け、どのようなやり取りをするのか見守る。

◇気持ちを伝えられるような言葉掛けをする。

◇それぞれのイメージが違い、C児は相手の思いに気付かず一人で配ろうとしていたと捉えたので、それぞれの思いにうなずきながら気持ちを受け止める。

◇思いを伝えることで遊びのイメージが共有できることを知らせる。

◇遊びを再開した3人を見守る。

○ 降園時に行った学級での振り返りの場面では、円になって座り、本時の遊びの楽しかったことを伝え合った後、「明日の音楽会ごっこはどんなことがしたい？」と翌日の遊びをイメージできるような言葉掛けをした。幼児は、「明日は衣装を作ろうよ」「そうだね。ビニール袋で作ろう」「そうしよう」などイメージを伝え合い、翌日を楽しみにする姿が見られた(図3)。



図3 振り返りの場面

(3) 事後の活動

戸外での音楽会ごっこの時に、虫採りに夢中になって参加しなかったF児は、その後、室内での音楽会ごっこに積極的に参加するようになった。他の男児も激しく踊るダンスが好きで、戸外よりも室内の方が踊りやすいという思いから、保育室の中やテラスで音楽会を開き、ダンスの多い音楽会ごっこの遊びを進める姿が見られた。

学級での振り返りの場面では、今度はこうにしたいという意見がたくさん出るようになり、翌日に期待をもつ姿が増えてきた。「衣装を作りたい」という意見を参考に、教師が扱いやすい素材や用具などを設定しておく、衣装を作って身に付けたり、お客さん用のマラカスを作ったりして、遊ぶ姿が見られた。学級での振り返りを毎日続けることで、イメージを共有し遊びを進めようとする幼児の姿が増え、遊びを工夫したり、中心となる幼児が変わったりしながら1か月近く音楽会ごっこが続いた。

5 考察

環境の構成の工夫については、幼児の興味のある歌や曲を、生活や遊びの中で取り入れてきたことで、歌ったり踊ったりする遊びを友達と展開するようになった。また、視覚で確認できる写真や絵本、ホワイトボードは、言葉で伝えることが苦手な幼児にも理解しやすく、とても有効であった。また、学級での振り返りの場を設定することで、翌日の遊びのイメージを伝え合い、イメージの共有につながった。しかし、手作り楽器で音の違いを聞き合っている段階で、教師のイメージの共有をして欲しい思いから、音楽会に関する絵本を提示したため、幼児は音楽会ごっこをしたいという思いになり、音を聞き合い楽しむ時間が十分に取れなかった。しっかりと幼児の思いや遊びを見取り、よりよいタイミングを考えて教材を提示していくことが大切であると感じた。

言葉掛けの工夫については、幼児一人一人の気持ちに寄り添い言葉掛けをしたことで、教師に理解してもらえる安心感から、相手に思いを伝えようとする姿が見られた。また、思いの違いから遊びが中断してしまう場面では、相手の思いに気付けるような言葉掛けをしたことで相手の思いに気づき、遊びのイメージを共有しやすくなることが分かった。

課題としては、同じ音楽会ごっこでも、それぞれの幼児のイメージが少しずつ違っているので、幼児一人一人のイメージを教師がより深く見取り、援助していくことが必要であると考えられる。